



令和の日本型教育の実現に向けて

令和3年1月の中央教育審議会の答申では、2020年代を通じて実現をめざす学校教育の姿として「令和の日本型教育」という概念を提案しています。これは、子どもたちが①社会の在り方の劇的な変化②将来の予測が困難な時代③社会全体のデジタル化の加速 に対応し、多様な人々と協働しながら未来を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることをめざしていくものです。その実現に向けての一つの重要なポイントにICTの活用があげられています。本校でも、今年度から配備されたタブレットの活用が着々と進んでいます。タブレットのアプリを使って自分の考えをまとめ、クラス全員でお互いの考えを見合ったり、写真を撮って観察の記録を蓄積したり、それらを担任の先生にデータとして提出するなど様々な取り組みに挑戦しています。ただし、従来の学習活動がすべてタブレットを使うものに置き換わることはありません。自分の手で書いたり、読んだり、計算したりといった基礎的な学習技能や学校ならではの直接体験活動や行事はこれまで同様に大切に



↑タブレットで自分の考えを説明



先生方も放課後に研修 ↑

にしていきます。むしろ、例えば、お互いに撮ってきた写真や見つけてきた資料を共有し分類しながら自分の考えをまとめていくなど、これまではできなかったような新しい学び方や友達との関わりをつくり出したり、一人一人の興味・関心やペースにあった進み具合を自分で考えながら主体的に学んだりできるように「高機能な文房具」として活用していきたいと思います。活用に向けて、教師側も子どもたちと同じくらい日々意欲的に研修をしています。

笑顔あふれる里の子に ～いじめの早期発見・早期解決～

例年6月と11月にいじめ発見アンケートを実施しています。これは、法令に沿って定めた本校の「いじめ防止基本方針」にもとづき、いじめの早期発見・早期解決の為にしています。6月の里の子朝会でもいじめに関する講話を行いました。全国的にいじめの認知件数は増加傾向にありますが、これは見方を変えれば「単なる遊びやふざけのつもりでも、された方が苦しんでいること」を見逃さず、重大な事案に発展する前に解決をしようとする積極的認知が進んでいると捉えることができます。小学生の認知数が多いのは、「いじめをしている」と気づかないことが多いためです。他者と関わりながら人間関係を学んでいく小学生が集団で生活する中で、様々なトラブルはつきものです。いじめはない方がいいことは当然ですが、安易に「いじめゼロ」を標榜して、「いじめが起きていないことにする」のではなく、「いじめが起きないようにどうするか」「起きた時にどのように解決するか」を学ぶことが大切と考えます。「いじめ放置ゼロ」「いじめ未対応ゼロ」をめざして、児童会スローガンにある「笑顔あふれる里の子」となるよう見守っていききたいと思います。

